

会議録

会議の名称	令和6年度第1回西東京市地域福祉計画策定・普及推進委員会
開催日時	令和6年6月 26 日(水)19 時 00 分～20 時 30 分
開催場所	田無第二庁舎4階会議室2・3
出席者	熊田委員(委員長) 前山委員 高橋委員 伊藤委員(副委員長) 山崎委員 中岡委員 篠宮委員 新野委員 中山委員 小口委員 佐藤委員
欠席者	小嶋委員
議題	(1)第5期西東京市地域福祉計画(成年後見制度利用促進基本計画・再犯防止推進計画)の策定について(主な変更点)【資料1】 (2)令和5年度地域福祉計画進捗状況について【資料2・3】 (3)その他
会議資料の名称	・資料1 第5期西東京市地域福祉計画(成年後見制度利用促進基本計画・再犯防止推進計画)の策定について(主な変更点) ・資料2 第5期西東京市地域福祉計画進捗状況調査票 ・資料3 地域福祉計画等の進捗評価 ・参考資料1 西東京市地域福祉計画策定・普及推進委員会設置要綱 ・参考資料2 西東京市地域福祉計画策定・普及推進委員会名簿 ・参考資料3 第5期西東京市地域福祉計画(成年後見制度利用促進基本計画・再犯防止推進計画) ・参考資料4 第5期西東京市地域福祉計画(成年後見制度利用促進基本計画・再犯防止推進計画)(概要版)
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録

会議内容
■開会 ■委員長及び副委員長の互選 熊田委員長、伊藤副委員長がそれぞれ互選される。 ■傍聴希望者なし ■議題(1)第5期西東京市地域福祉計画(成年後見制度利用促進基本計画・再犯防止推進計画)の策定について(主な変更点)【資料1】 事務局から、【資料1】を説明。

【主な意見】

○委員

新たに若者等にアンケート調査を行ったのは良い。アンケート調査は行って終わりとなりがちだが、行った後も大切である。

○委員長

アンケート等を基に計画を作ったわけだが、特にひきこもりや若者の社会的孤立といったところが一つの柱になってくるのは間違いないので、委員会の中からもご意見をいただきたいと思っている。

■議題(2)令和5年度地域福祉計画進捗状況について【資料2・3】

事務局から、【資料2・3】を説明。

【主な意見】

○委員長

資料2の目標について、今後5年間の状況の中で変わっていくこともあると思うが、委員会に諮った上で目標値を変えていくことはできるのか。

資料3について、参加支援とアウトリーチ等を通じた継続的支援事業の相談受付件数が多く上がっているのに対し、多機関協働事業の相談受付件数が少ない印象がある。今後どのように制度の周知をしていくかが課題かと思っている。

●事務局

目標については、本委員会に諮りながら調整を図っていきたい。

相談件数については、事業の周知や利用のしやすさというところの改善に努めていきたい。

○委員

成年後見制度利用促進基本計画に関して、あんしん西東京の中核機関化と成年後見報酬助成制度の対象者拡大の話があったが、それを行うためには人手と予算が増えることとなるため、近隣市の状況と比較しながら検討を進めて欲しい。

また、未成年後見人という、18歳になるまでの後見人が必要なケースがある。実際に我々も支援に当たっているが、今後、調査・研究をしてもらえると良いかと思う。

●事務局

中核機関化については、5期計画の中で明記をしたところである。今後庁内調整を進めていきたい。また、報酬助成については、他自治体の事例を踏まえ、適切に庁内調整を進めていきたい。未成年後見についても、調査・研究を進めていきたい。

○委員

重層的支援体制整備事業について、その会議にかけてもらうまでのハードルが高いかなと思っている。まずは既存の会議を活用することになっているが、そこが中々できない状況もあるので、こちらとしても重層的支援体制整備事業の会議にかける必要性があることを伝えていきたい。

また、アウトリーチ等を通じた継続的支援事業について、実際にアウトリーチを行った実人数が分かれば教えて欲しい。

資料2「高齢者一般調査【高齢者層における地域包括支援センター認知度】」について、認知度が上がっていかないところで、介護の相談だけでなく、予防や地域の連携だったりも意識した高齢者へのアプローチもしていかなければいけないというのが反省点である。

●事務局

重層的支援体制整備事業の会議の件については、よりフレキシブルに動ける体制作りを内部的にも進めている。今後、皆様の意見も得ながら進めていきたい。

アウトリーチの実人数については手元に資料がないが、今後も適正な実施に努めていきたい。

高齢者一般調査の結果については、庁内関係部署と共有を図り、取組を推進していきたい。

○委員

資料2の末尾の「今後の展開」へ内部評価的なものを少し入れながら、今後の展開や取組を書いていくのが良いかと思う。例えば、本委員会で出た話を集約して載せるなどのやり方が考えられる。

●事務局

ご意見を踏まえ、進捗管理の仕方を検討していきたい。

○委員長

所管部署に加え、委員会の評価も載せることで、多角的に評価ができるのは良いことだと思うため、事務局で今後検討をして欲しい。

○委員

若者支援の中にはひきこもり支援など、様々なものが含まれると思うが、到達点はどのようにイメージされているのか。我々がやっている児童館では18歳までを受け入れているが、ほかの自治体では、29歳まで受け入れられる施設を作っている。また、包括的な施設を作っているところもある。支援は一般的には29歳よりも上を指すと思うが、そういった施設や専門部署ができるということなのか、段階的にそこに向かっていくということなのか、イメージを教えて欲しい。

●事務局

29歳以上への支援も必要になってくると認識している。まずは実態調査を踏まえつつ、国が求めているひきこもり支援センターを視野に入れながら進めていく想定でいる。また、実際の支援

としては、既存の就労支援やサポートセンターとの連携などをおし、こういったものが西東京市には必要なのかを探っていく。

また、市全体としては今年度「子育て・子育てわいわいプラン」を策定する。国が求める子ども・若者計画も取り込んでいく中で、総合的な若者支援はそちらの策定を待って、地域福祉計画の方にもどのように反映させていくかを皆様とも検討していきたい。

○委員

若者支援において仕事というテーマは外せない。そうすると就労の手前の部分の支援を厚くしていきたい。実際のところでは就労しながら、学んでいく。それで、ときには辞めてしまうこともある。そうすると市内の商店や企業だったり、人手不足と言われている福祉の分野だったり、色々な事業者も視野に入れて連携していけたら良いと思う。

●事務局

市内の貴重な社会資源をいかし、できる限り連携を取っていきたいと考えている。

○委員長

重層的支援体制整備事業の中で地域づくり支援があるが、地域の事業者や商売をしているところをつなぎ、参加支援につないでいくことが重層的支援体制整備事業の課題だと思うので、そこをどのように進めていくのか、どのようにすれば就労支援が積極的に進められるのか、ぜひ専門的な視点から意見をいただきたい。

○委員

子どもの表記が少ない印象がある。また、子どもや子育てといったワードがほかの計画と比較すると少ない。つながりあう地域づくりであったり、関連するところはあると思うため、内容でフォローしていけたら良いと思う。

●事務局

今後の表記の仕方や見せ方の参考とさせていただきたい。

○委員

社会福祉協議会で委託や補助を受けている事業について、目標値の妥当性はこれまでの計画の流れも踏まえて検討していければと思っている。例えばボランティアセンターでいうと、高齢の方の登録が多いため、その方々が活動をやめられていくことも踏まえて、若い方の参加を増やしていくことが課題と考えている。

○委員長

目標設定の妥当性は事務局としてどのように考えているか。

●事務局

実績等を踏まえ設定したところだが、5年間の計画期間の中で適宜見直しも検討していきたい。

○委員長

そもそも人口減少社会の中で、自治会加入世帯数などを増やしていくことが現実的なのか、今度事務局の方でも検討をしていてもらいたい。

○委員

再犯防止の関係で、施設から戻ってくる人も高齢者が増えている。また、福祉につなげる必要もある。さらに、仕事は生活が充実していく中での一つの条件だが、なかなか見つけるのが難しい。協力雇用主の開拓も必要であり、法務省も手厚い補償をしたりしているが、それでも中々難しいところがある。そのような中、計画をとおして市の方に相談をしていけると分かったことはありがたい。

●事務局

課題はまだあるが、市としても引き続き支援をさせていただきたい。

○委員長

再犯防止等について、計画に載ったということは、市として責任を取るということだと思う。非行の若者だけでなく、再犯防止の観点などからも就労支援などを進めてもらいたい。

○委員

自治会等の加入数は、人口が減少している中で目標値を下げて良いのでは。また、保護司の関係で事件もあったが、保護司会で今後の体制の話などは出ているか。

○委員

今は比較的保護司数が充足しているが、成り手がいない中で今後が心配。事件を踏まえ、保護観察所からの個別フォローもあった。自宅での面接はやはり難しいところがあるため、市に会議室を借りたり、保護司会の準備室で行ったり、複数で対応するなどをしている。

○委員長

保護司や民生委員の成り手が少ないことに対してどう改善していくかを考えるのも地域福祉計画の役割である。やりがいを持てるような地域づくりも重要になってくる。

●事務局

保護司の方々などが利用しやすい体制づくりを引き続き進めていきたい。

○副委員長

アウトリーチ等を通じた継続支援の相談件数に対して、多機関協働事業につながった案件が少ないのはなぜか。

また、地域づくり等も大切だが、地域福祉コーディネーターなどの支援者も疲弊しているのでは。支援者を支援することも必要。ひきこもりなどの問題は専門家でも難しい。それを市民に預けるだけではなく、市民と専門家との協力や研修・講座等、支援の質を向上する機会を手厚くして欲しい。特に精神科などの専門家が介入することもあるケースも多いため、そういった現場の方の支援者の質の向上を図らないといけない。支援が必要な方にとって就労などはゴールであり、まずは人とつながって、人に愛されることなどを経験しないと、次につながらない。そういった点も踏まえて、支援の質の向上が必要である。

●事務局

重層的支援体制整備事業の扱いの件数だが、今後、より利用しやすい制度にしていきたい。

また、地域福祉コーディネーターへの支援も引き続き考えていきたい。

○委員

支援会議につながった件数と相談件数の話があったが、地域福祉コーディネーターは自分たちで解決するのではなく、つなぎ役になるため、会議の開催までには至らなかったところもあると思う。

■議題(3)その他

事務局から事務連絡

■閉会